

子供の体力の向上に向けた課題の焦点化と取組の充実 ～教員や子供の「する、みる、支える、知る」を支援する取組～

北海道教育委員会

取組時の課題と目的

Plan

1 取組時の課題

平成27年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、本道の児童生徒は全国と比較して「運動やスポーツをすることが好き」と回答した割合は高いものの、体力合計点では全国を下回っていた。項目別に見ても、小学校は男女ともに握力とソフトボール投げ以外の項目、中学校は男子が握力以外の項目、女子が全ての項目において低く、体力・運動能力のバランスに課題が見られた。また、児童生徒質問紙調査においては、1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合が高く、運動習慣の定着に課題が見られた。

2 取組の目的

- ① 体育の授業を通して児童生徒が体力・運動能力をバランスよく高めることができるよう、体育の授業の改善・充実を図る取組を推進する。
- ② 運動の機会の創出を図り、児童生徒が学校や家庭などで運動に親しむことができるよう、学校における授業以外の取組や、家庭などでの運動に活用できる取組を推進する。

取組の内容

Do

1 小学校への体育専科教員の配置

道内の各地域に合計33名（平成29年度）の体育専科教員を配置し、「体育の授業の改善・充実」「体育の授業以外の取組の充実」「教員の指導力の向上」「体力の向上の取組の発信」を柱とした取組を推進している。

体育専科教員は本調査などの結果を踏まえ、四つの柱をもとにして体力の向上に向けた全体計画を作成し、全教職員の共通理解のもと、組織的な取組を推進している。

体育の授業の改善・充実



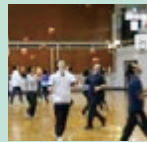
- ・学年の系統性を考慮した効果的な指導計画の作成
- ・授業の流れの統一化
- ・役割を明確にしたTT指導
- ・ICTや用具などの効果的な活用 など

体育の授業以外の取組の充実



- ・児童会によるイベントや運動教室の実施
- ・季節に応じた取組
- ・日常的に運動に親しむことができる環境整備
- ・行事や地域のイベントと連動した取組の実施 など

教員の指導力の向上



- ・校内における実技講習会の実施
- ・学習シートや用具などの共有化
- ・域内の教員を対象とした研修の実施
- ・授業の改善に向けた資料の作成・配付 など

体力の向上の取組の発信



- ・授業の公開（研究会、参観日など）
- ・教員向け通信の発行（実践や児童の変容など）
- ・保護者向け通信の発行（体育の授業や授業以外の取組の紹介、家庭でできる運動例など） など

道教委では体育専科教員の取組をまとめた実践概要報告集を作成し、Webページに掲載するとともに、効果的な取組事例を研修など様々な場面で紹介するなどして、道内の学校への普及・啓発を行っている。

■実践概要報告集

北海道

体育専科教員

検索

また、体育専科教員の資質・能力の向上を図るため、体育を専門とする大学の准教授による講義や、各学校における効果的な実践の情報交換などを行う研修を年間2回開催している。



2 授業などの改善に関する講習会の開催

体育の授業の改善及び教員の資質・能力の向上を図るため、小・中学校、高等学校、特別支援学校の教員を対象とした講習会を開催している。

全体会では本道児童生徒の体力・運動能力などの状況や課題を全参加者で共有するとともに、「運動が苦手な児童生徒ができた喜びを実感できる指導」を共通の課題として協議を行った。

その後の部会では、体育分野（運動領域）と保健分

野（領域）に分かれ、スポーツ庁主催の「体育・保健体育指導力向上研修」に参加した教員を講師として課題の解決に向けた実技や演習などを実施した。



3 どさん子元気アップチャレンジの実施

学校や家庭などにおいて、子供たちが運動に親しみ、自分の目標に向かって楽しく体力の向上を図ることができるよう、学校などが活用できる取組を実施している。

例えば、学校や長期休業中に家庭などで取り組める「短なわ跳び全道大会（学校部門、家庭・地域部門）」、体育の授業や休み時間などに生徒が創作したダンスの動画を募集する「DOSANKO 中学生ダンスムービーコンテスト」、各学校の特色ある体力の向上の取組を写真で募集する「1校1実践で元気いっぱい！ フォトコンテスト」などがある。



短なわ跳び全道大会では、参加した全児童生徒の記録を道教委のWebページに掲載するとともに、各学年の上位入賞者に対して記録証を授与している。

4 スポーツ団体との連携による運動動画の配信

子供たちが家庭などにおいて手軽に体を動かすことができるよう、「短い時間でリフレッシュ」をテーマに創作したダンスエクササイズ（通称「チョコ・ダン」）や、「チャレンジ」をテーマにしたなわ跳びの技（通称「なわとびスキル」）の動画を道内のスポーツ団体と連携して作成し、YouTubeで配信している。児童生徒向けのリーフレットを作成して市町村教育委員



会や学校に配付するのはもちろんのこと、様々な広報媒体を活用して地域全体に広く周知を図っている。

→ 工夫したこと

- ①本調査の結果を踏まえ、様々な課題の中でも特に「運動が苦手な子供や運動時間が少ない子供への働きかけ」の焦点化を図った。
- ②取組を効果的に進めるため、現状の強みと弱みの分析を行った。
 - ・強み：体力の向上に関する事業など、外部団体との連携、YouTubeや広報などを活用した情報の発信など
 - ・弱み：広域性、学校における体力の向上の取組の支援、小学校における体育を専門とする教員の不在など
- ③強みと弱みを関連させた取組を検討し、実施した。
 - ・体育専科教員の実践をまとめた教員向け資料の発信
 - ・授業の改善に資する実技を中心とした講習会の開催
 - ・体力の向上の取組として学校がWebページやメールを活用して取り組むことができる「どさん子元気アップチャレンジ」の取組
 - ・外部団体との連携による家庭などでも手軽に取り組むことができる運動動画の配信 など

取組成果の評価



- ①平成27年度と平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、次の成果が見られた。
 - ・体力合計点が小中学校の男女いずれにおいても上昇するとともに、敏捷性や柔軟性などの項目においても記録が上昇し、改善の傾向が見られた。
 - ・1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合が減少し、特に小学校女子においては全国を下回るなど改善の傾向が見られた。
- ②様々な場面で体力の向上に向けた取組の普及・啓発を行ってきたことにより、地域の少年団や放課後子供クラブが短なわ跳び全道大会に参加するようになったり、運動動画が高齢者への運動啓発に活用されたりするなど、家庭や地域などにおいて運動やスポーツに対する意識の高まりや取組の広がりが見られた。

今後の課題



本調査などの分析結果をもとに取組の重点化を図り、一人一人の子供が運動やスポーツの楽しさを味わい、自分の成長を実感したり、達成感を得たりできる体育の授業の充実や、継続的に取り組むことができる運動機会の創出など、更なる授業の改善と運動習慣の定着に向けた取組を推進していく必要がある。